

厚生科学研究費補助金(子どもの家庭総合研究事業)
分担研究報告書

各種母子保健・医療情報の集積、活用に関する研究

分担研究者 山縣然太郎(山梨医科大学保健学 講座教授)

研究協力者 松浦賢長(京都教育大学衛生学助教授)、玉腰浩司(名古屋大学医学部公衆衛生学講師)、豊嶋英明(名古屋大学医学部公衆衛生学教授)、長瀬博文(金沢大学医学部公衆衛生学講師)、荻野景規(金沢大学医学部公衆衛生学教授)、中村和彦(山梨大学教育人間科学学助教授)大木秀一(山梨医科大学保健学 講座助手)、山田七重(山梨医科大学保健学 講座助手)

本研究は母子保健情報の有効活用のシステム構築という最終目標のために本文で述べる5つの研究課題を実施するものである。本年度は第1の課題である既存情報の整理(既存情報を列挙し、調査母体、調査概要、情報管理について整理する)を実施した。まず情報源を5分類(小児臨床、母性・周産、小児保健、学校保健、障害・福祉)とし、キーワードを用いて情報を分類し、情報を収集、整理した。メーリングリスト運用による情報の共有化をおこなった。情報は開発中のデータベース入力画面を用いて整理した。現在、約2000の情報・データをすでに収集・記録した。今後の課題としては、データシートの項目および選択肢を洗練していく必要性、情報の内容・項目などについてはどこまでの情報を得るべきかの検討、調査概要の詳細まで確保するためには、原本を入手する必要性などである。

A. 研究の目的

母子保健行政を効果的におこなうため、母子保健情報の収集および活用は不可欠である。しかもその情報の質を吟味し、選択することが重要である。そこで、本研究は母子保健情報も有効活用のシステム構築という最終目標のために、次の項目を目的に実施する 母子保健・医療に関する各種情報を系統的に集積する。収集した情報の質的評価をする。それらの効果的、効率的な活用の方法を探る 21世紀の母子保健の取り組みの方向性を提示する上で目標となる指標を明示する。このような情報システムは母子保健情報に限らずわが国には見当たらず、医療保健情報システムのモデルになることが期待される。

B. 研究の方法

(1) 本研究の概要(5の課題)

本研究はつぎの5の課題を検討する。

1. 既存情報の整理(既存情報を列挙し、調査母体、調査概要、情報管理について整理する)
2. 既存情報の質的評価(既存情報に関してデータの質の評価をする)
3. 既存情報の必要性の検討(既存の情報について、今後の母子保健施策に対する必要性を検討する)
4. 既存情報の有効活用、高度利用に関する検討(各既存情報におけるリンケージの可能性を検討する。高度利用、有効利用の可能性を検討する)
5. 母子保健情報収集と活用のシステムの構築(上記検討を踏まえ、母子保健施策上、必要となる情報の収集と活用のシステムを国レベル、都道府県レベル、市町村レベルに分けて構築する。情報収集、保管、活用に関する倫理的課題の検討。情報収集に関するコンピューターシステム(インター

ネット)の構築。情報保管方法に関する検討。

本年度は1.の既存情報の収集整理を試みた。

(2)情報の分類

5分類：小児臨床、母性・周産、小児保健、学校保健、障害・福祉

キーワード(資料参照)を用いて情報を分類し、各担当研究協力者が収集

メーリングリスト運用による情報の共有化(重複を避ける)

将来的にはデータベース・サーバーを運用予定

(3)情報の収集・入力

大学図書館、子ども家庭総合研究所図書室、政府・自治体資料室

A C C E S S上のデータベースフォーマット(資料参照)を作成、協力員がWeb上で利用可能なシステム構築

現在、フォーマットは第一版、2月中旬に第二版を開発予定

(4)情報の内容

1.基本統計(政府各省庁、都道府県)

人口動態統計、母体保護統計など

2.調査研究報告書(政府各省庁、都道府県)

国民生活基礎調査、国民栄養調査、国民選好度調査

3.厚生省の母子保健事業

小児慢性特定疾患治療研究事業、マス・スクリーニング事業、母子保健課事業、省内他課事業(地域保健事業、歯科保健事業)、行政的照会、各種検討会

4.研究報告書(研究班、学会、科学研究費)

厚生省心身障害研究、学会がまとめた調査研究、科研

但し、心身障害研究についてはデータベース化プロジェクト進行中

5.審議会・プロジェクト等報告書(政府各省庁)

各種政府審議会の報告でとくにデータが示されるもの

6.調査研究報告書(研究所等)

人口問題研究所、子ども家庭総合研究所、国立教育研究所など

7.調査研究報告書(民間研究所、民間シンクタンク)

マスメディア系、マーケティング系、証券系、保険系、教育系

8.調査研究報告書(一般企業、一般団体)

J A Fのチャイルドシート着用率調査、ミルク会社の調査等

9.調査研究(学会誌等誌上発表：個人、スモールグループ)

研究者の研究(ただしA I K E N - C Dにほとんどが所蔵されている)

10.都道府県および市町村の母子保健事業別枠で網羅

C.研究結果

(1)全体の進捗状況

約2000の情報・データ(上記1~7)をすでに収集・記録済み

(2)母性・周産関係

愛育のデータベース(所蔵・雑誌)

1.「報告書」「調査」「実態」「事業報告」「アンケート」「統計」をキーワードとして検索した後、分類キーワードを基準として、母性・周産に関係するものを拾い上げる。

2.「妊娠」「分娩」「出生前」「不妊」「母乳」等をキーワードとして検索し、漏れているものを追加していく。

関連学会

学会誌(日本産科婦人科学会等)を中心に学会小委員会の行った全国規模の調査・研究を収集する。

インターネット

「調査」「統計」「アンケート」等で検索し、関連する情報を収集する。

・新聞：日経新聞、毎日新聞等

・自治体

・労働省：女性局等

・団体：京都ダウン症児を育てる親の会(出生前診断及び母体血清によるスクリーニングに関するアンケート調査)等

・大学研究室：研究内容紹介等

名古屋大学の検索システム

愛育のデータベースと同様に検索し、漏れているものを拾い上げるとともに、大学で入手可能なものをチェックする。

現状

- ・ 報告書、統計資料等：140程(患者調査等は含まず)
- ・ 文献：400程(1990年以降)

課題

研究報告書の中の分担研究をどうするか。
統計報告の具体的な記載内容をどうするか。
厚生省の統計報告に名前が変更されているものがあるがどうするか。

(3) 小児保健

インターネットを中心とした情報収集の詳細
学術雑誌に掲載されている情報を除いた情報を如何に効率よく収集できるかということが課題となっていた。そこで、インターネット上の情報、もしくはインターネットのリンクからたどっていった情報を収集することになった。まず、以下の情報サイトを重点的にあつた。

- 1) 各全国紙新聞社の検索エンジン
- 2) 厚生省
<http://www.mhw.go.jp/>
- 3) NIRA (総合研究開発機構)
<http://www.nira.go.jp>
- 4) 日本総合子ども家庭研究所
<http://www.aiiku.or.jp>
- 5) NHK放送文化研究所
<http://www.str1.nhk.or.jp/toppage.cgi>
- 6) ライフデザイン研究所
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/LDI/ROOT.html>
- 7) 東京都
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/CHOUSA.HTM>
- 8) 日本青少年研究所
<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/open.html>
- 9) 人口問題・社会保障研究所
<http://www.ipss.go.jp/>
- 10) 文部省
<http://www.monbu.go.jp/>
- 11) 総理府

<http://www.sorifu.go.jp/>

12) 総務庁

<http://www.somucho.go.jp/>

13) ベネッセ研究所

<http://www.crn.or.jp>

14) くもん子ども研究所

<http://www.kumon.ne.jp/ke0000j.htm>

15) O - N E T

<http://www.onet.co.jp/port/index00.html>

さらに、散発的に情報が蓄積されているサイトにもアクセスした。たとえば、おもちゃメーカー、食料品メーカー、などの小児関連企業、経済的な側面からそのような情報を蓄積しているマーケティング系、銀行・証券系シンクタンクなどである。その結果、約2000の情報の存在が確認され、その主たる情報がこれまでに収集された。それらの一部(保健分野を中心に)を資料として示す。

今後の課題

これら2000の情報には、小児の事故関係の情報が少ないのが判明した。すなわち警察庁関連の事故統計などである。また、シートベルトの着用率、あるいは、チャイルドシートの着用率などの、事故予防に関する調査報告も極端に少なかった。今後はこれらについて重点的に情報収集する必要がある。また、国立統計数理研究所や総理府の世論調査など、厚生省以外の政府省庁に存在する母子保健関連情報についても網羅しなくてはならない。

膨大な情報が収集されている厚生省の各班研究であるが、たとえば心身障害研究については、本研究と同じ柳澤班のなかの中村敬班によりデータベース化がすすめられている。当然のことながら、その成果と本研究との有機的な関連を模索する必要がある。われわれは、現時点では中村班の成果を待つ段階にあり、心身障害研究についてはペンディングの状態にある。成果を利用できる段階になれば、われわれの目的とクライテリアに合致する情報をそこから検索し、情報を収集する予定である。また、これは心身障害研究にとどまる

のみならず、中村班のノウハウを活かすかたちで同様のデータベース化を厚生省の他の班研究にも拡充していただければ、本研究の「有機的なリンクをはる」という目的がさらに強化されると思われる。

また、インターネット上の情報は玉石混合といってよい。今後は、やみくもに数を増やすという方向に走るのではなく、質を吟味する段階になってきたといえる。まずは、全国規模の調査報告、複数都道府県にまたがる規模の調査報告を中心に可能なかぎり(約30年)遡って、収集された情報の質の評価をしていく必要がある。少なくとも学術的(疫学的)な評価・区分に耐えられるような詳細情報を入手する必要がある。それらの情報項目を以下に示す。

- (1) 研究・調査の実施レベル(全国レベル、複数都道府県、単一県内、市町村)
- (2) 研究・調査対象母体：対象
- (3) 研究・調査対象母体：調査母数
- (4) 研究・調査対象母体：回収数
- (5) 研究・調査対象母体：計算された回収率

そこで調査報告書などの実物を取り寄せる必要が出てきた。現時点では、インターネット上で、調査報告の全容を知ることが困難である。それらが可能なサイトはわずかであり、厚生省、あるいはベネッセ研究所、などにすぎない。他の機関においても順次、調査報告の全容公開がインターネット上で進みつつあるが、それらは最近のものから若干過去に遡ってなされている程度といえる。

収集された情報が公開された場合には、それらの「実物」にあたりたいという要求が多く寄せられることであろう。各調査報告を出版した機関それぞれに問い合わせていただくというのも一つの手段ではあるが、これらのある程度の質の評価をクリアした全国的調査報告が一括して所蔵されている場所(センター的なもの)が必要として出てくるであろう。

以上のことから、われわれは、情報を収集する段階から、次の段階、すなわち収集された情報の質を吟味する段階へと移行しつつあるといえる。さらに、(1)これらの質を吟味していく上で、全国的な展開が必要だと思

われる調査研究はどのようなものであるかを各担当者が提言していくこと、(2)ある一定の質を有すると考えられる調査報告を閲覧できる情報所蔵センターの構想を提言していくこと、なども本研究の射程内にあると思われる。

(4)小児臨床

- 1. 基本統計(政府各省庁)
 - 2. 調査研究報告書(政府各省庁)
- 下記の4つの資料にあたり、母子保健に関する統計を拾った。
- ・厚生省のHPの厚生統計調査一覧
 - ・我が国の母子保健 平成9年(厚生省児童家庭局母子保健課)に使用されている統計調査
 - ・「国民衛生の動向」巻末の「主な衛生関係統計調査」
 - ・「国民の福祉」の動向巻末の「主な社会福祉関係統計調査」

進捗状況は、下記のように分類できる。

- A. 厚生省HPの説明文による情報(かなり充実)
 - **人口動態調査
 - *人口動態統計特殊報告
 - *人口動態社会経済面調査
 - **国民生活基礎調査報告
 - 保健福祉動向調査報告
 - *社会福祉施設等調査
 - 厚生省報告例(社会福祉関係)
 - 社会医療診療行為別調査
 - 健康・福祉関連サービス産業統計調査
 - 健康・福祉関連サービス需要実態調査
 - 地域児童福祉事業等調査
 - **患者調査
 - 受療行動調査
 - *医療施設調査
 - 訪問看護統計調査
 - *病院報告
 - 厚生省報告例(衛生関係)
 - 地域保健事業報告
 - 伝染病統計
 - 母体保護統計報告
 - 医師・歯科医師・薬剤師調査

生命表
国民医療費
B. 国民衛生・国民福祉の動向の説明文による(実施母体は明らか)
* 人口動態保健所・市区町村別統計 人口動態統計特殊報告
* 厚生省報告例(衛生行政業務報告)
地域保健・老人保健事業報告
食中毒統計
病院経営収支報告
医療扶助実態調査
国民健康保健医療給付実態調査
喫煙と健康問題に関する実態調査

厚生省報告例(社会福祉行政業務報告)
被保護者全国一斉調査
社会保障生計調査
児童福祉実態調査
家族機能基本調査
C. タイトルのみ(我が国の母子保健と厚生省HPの残り)
* 歯科疾患実態調査
児童環境調査
全国家庭児童調査
全国母子世帯等調査
乳幼児栄養調査
乳幼児身体発育調査
養護児童等実態調査
被保護者生活実態調査
身体障害者(児)実態調査
精神薄弱児(者)実態調査
* 循環器疾患基礎調査
結核・感染症発生動向調査
医療経済実態調査

健康保険診療状況実態調査
健康保険被保険者実態調査
国民健康保険医療給付実態調査
国民健康保険実態調査
国民健康保険診療状況実態調査
政府管掌健康保険及び船員保険の医療給付受給者状況調査
NIRA 研究報告書「わが国出生率の変動要因とその将来動向に関する研究」
さくら総合研究所「社会調査レポート」
* * わが国の母子保健

衛生行政業務報告
厚生行政調査報告
出産力調査
出生動向基本調査
* * 厚生白書
国勢調査報告
* * 国民栄養の現状
* * 国民衛生の動向
子どもにやさしい街づくり事業国庫補助金実績報告
社会医療調査報告,
社会生活基本調査報告
社会福祉行政業務報告
生活保護動態調査報告
乳幼児身体発育調査
病児デイケアパイロット事業 平成4年度調査報告書
保健衛生基礎調査報告
母子保健衛生費補助金実績報告
学校基本調査
経済企画庁「国民生活選考度調査」
就業構造基本調査報告書
総務庁「家計調査年報」
総務庁統計局・「労働力調査」
* は現時点で現物に当たれそうなもの(最新でないか未確認のもの多し)
最新の現物を石川県厚生部に出向いて調査する予定。
障害福祉関係は、社会福祉協議会に出向いて調査する予定。
3. 研究報告書(研究班、学会、科学研究費)
大木先生分類による、小児臨床の分を大木先生と分担、基本的にはこれらを優先 金沢大学に他年度があればそれも対象とする。
・心身障害研究 78
・神経疾患 14
・精神・神経疾患 11
・特定疾患 13
・予防接種 8
・がん 1

厚生省科学研究事業
心身障害研究(データベース化プロジェクトにリンクする予定とのこと)データベース化プロジェクトにおいては、平成9年以前は、画像ファイルのため、データシート完成のため

めには、現物にあたり、データシートを1枚ずつ作成。 - > 停止

神経疾患研究事業

精神・神経疾患研究事業

予防接種研究事業

上記のうち金沢大学所蔵の現物に当たりデータシートの完成を目指しているが、現在は、題目、著者名、所属のエクセル入力段階である。1報告書あたり、100研究前後のものもある。データシートの完成までかなりの時間がかかりそうである。

特定疾患調査研究事業

平成6年～平成9年度報告分のCD-ROMを手に入れ、題目、著者名、所属のエクセル入力を完了。このうち、小児に関する疾患がかなり含まれている。(研究報告ごとに当たれば、小児関係かどうか不明のものもある)対象などのデータシート項目は未入力。

平成6年 約 1300件

平成7年 約 1900件

平成8年 約 800件

平成9年 約 1100件

がタイトル、著者、所属がエクセルのファイルに入力済み。

厚生省科学研究事業に関する情報(厚生省の後輩曰く)

平成9年以降の分

電子媒体による提出を義務づけており、研究概要が厚生省のホームページに載っている。

電子媒体が存在するかどうかは、各担当課に問い合わせないとわからないとのこと。

平成9年以前の分 研究者及び研究課題は、厚生科学要覧(株式会社 ぎょうせい)にあたる。

文部省科学研究費

学術情報センターのデータベースの中にある科学研究費補助金研究成果概要データベース(287,000件、1985年～)を利用して検索する予定

(現在データベース利用資格申請手続中)

9. 調査研究(学会誌・専門誌等誌上発表:個人、スモールグループ) 研究者の研究

医学中央雑誌による検索

検索に使ったシソーラス用語

小児、子ども、子供、こども、胎児、新生児、乳児、乳歯、幼児、小学生、中学生、園児、

学童、児童、生徒、学生、学校、幼稚園、保育園、少年、青年、青少年、青春、早産、母子感染、先天、学習、登校、文部、若年性を冠したシソーラス用語を対象とした検索を行った。

(シソーラス用語は、内容を加味してインデクサーが付加する用語なので、効率の良く、無駄の少ない検索ができ、また適当なシソーラス用語に変換してから検索してくれるため、キーワードに引っ張られず適切な言葉で検索できる利点がある。網羅性を求めるため加えて機械的な検索が含まれるキーワード検索も必要であろう。)

実際に使ったシソーラス用語(適切な言葉に変換されているので、必ずしも上記の言葉を冠していない)「CELIAC DISEASE」「ICU小児」「ICU新生児」「LE SCHNYHANSYNDROME」「POLIOVIRUSHUMAN13」「SCHUERMANNSDISEASE」「WERNIGHOFFMANNDISEASE」「けいれん乳児」「サーベイランス」「育児」「黄色肉芽腫若年性」「黄疸新生児」「下痢症乳幼児」「過剰学習」「学校」「学校看護」「学校歯科学」「学校保健サービス」「学習」「学習される無力感」「学習障害」「学習転移」「学生」「関節リウマチ若年性」「眼炎新生児」「奇形」「牛眼」「恐怖症」「経軸索ジストロフィー」「呼吸窮迫症 候群」「黒色腫若年性」「骨皮質肥大症先天性」「思春期遅発症」「施設収容児」「施設 収容青年」「歯科医療小児」「歯牙脱落生理的」「歯周炎若年性」「児童の権利擁護」「児童虐待」「児童虐待性的」「児童就学前」「児童心理学」「児童精神医学」「児童相談」「児童相談所」「児童扶養家庭扶助」「児童福祉」「児童保護」「自閉症乳幼児」「集中治療新生児」「小児」「小児デイケアセンター」「小児の行動」「小児の発達」「小児栄養」「小児栄養障害」「小児科学」「小児科助手」「小児看護」「小児言語」「小児行動障害」「小児歯科学」「小児性愛」「小児発達障害広汎性」「小児反応障害」「小児病院」「小児保健医療サービス」「小児養護」「少年非行」「新生児」「新生児ス クリーニング」「新生児仮死」「新生児学」「新生児看護」「新生児禁断症候群」「新生 児室病院」

「新生児疾患」「新生児疾患と奇形」「新生児出血性疾患」「神」「神医学」「神経軸索ジストロフィー」「性的」「精神」「精神分裂病小児」「青年期」「青年期の行動」「青年期医学」「青年期栄養」「青年心理学」「青年精」「青年保健医療サービス」「赤芽球症胎児」「全国調査」「胎児循環遺残症」「登録」「糖尿病インスリン依存性」「特殊児童」「乳歯」「乳歯列」「乳児の行動」「乳児栄養」「乳児栄養障害」「乳児死亡率」「乳児食」「乳児福祉」「乳児用品」「乳児養護」「乳幼児」「乳幼児殺害」「入院児童」「入院青年」「白血病急性リンパ性L1」「発疹突発性」「発達障害」「皮膚炎アトピー性」「皮膚硬化症」「分裂病小児」「保育学校」「保育器」「保育所」「保健医療職学校」「未成年者妊娠」

検索状況
例)

2000年分

1176件 - >

247件 (21.0%) 原著論文

111件 (9.4%) 原著論文、症

例報告

372件 (31.6%) 会議録

157件 (13.4%) 会議録、症

報告

12件 総説

208件 (17.7%) 解説

9件 解説、症例報告

52件 一般

8件 図説

例)

1999年分

14676件 - >

1941件 (13.2%) 原著論文

816件 (5.4%) 原著論文、

症例報告

5661件 (38.6%) 会議録

2339件 (15.9%) 会議録、症

例報告

78件 会議録含むほか

123件 総説

3179件 (21.7%) 解説

114件 解説、症例報告

324件 (2.2%) 一般

53件 図説

19件 図説含むほか

18件 講義

このうち、原著論文と総説の1844件に抄録が付加されている。

同様の方法で1994年まで検索しダウンロードした。

ちなみに「小児」で検索してみると、

キーワード シソーラス

2000年 364件 344件

1999年 5896件 5523件

1998年 5615件 5298件

1997年 4760件 4401件

1996年 5149件 4530件

1995年 3949件 559件

1994年 3845件 473件

医学中央雑誌による検索

学会がまとめた調査研究、全国調査は、医学中央雑誌で検索したところ、

例)

1998年

全国 , 全国健康栄養調査 , 全国調査 , 全国登録 登録 , 登録者 , 登録制度、サーベイ , サーベイランス , サーベイランス情報、and 小児(を冠したキーワード)で48件ヒットし、有益な全国調査がかなりあり、このデータシートは作成する意義が高いと思われる。今後は、疫学、疫学調査などのキーワードも考慮。

問題点。

・報告書が数多く、今年度はどこまで調べる予定か?

・医中誌はどこまで調べれば完了か?

(4) 課題

・データシートの項目および選択肢を洗練していく必要がある

・情報の内容・項目などについてはどこまでの情報を得るべきか検討中

・調査概要の詳細まで確保するためには、原本を入手する必要がある

・都道府県・地方自治体レベルの取り組み・プロジェクトについてどうするか検討する必要がある

・次年度以降の研究計画

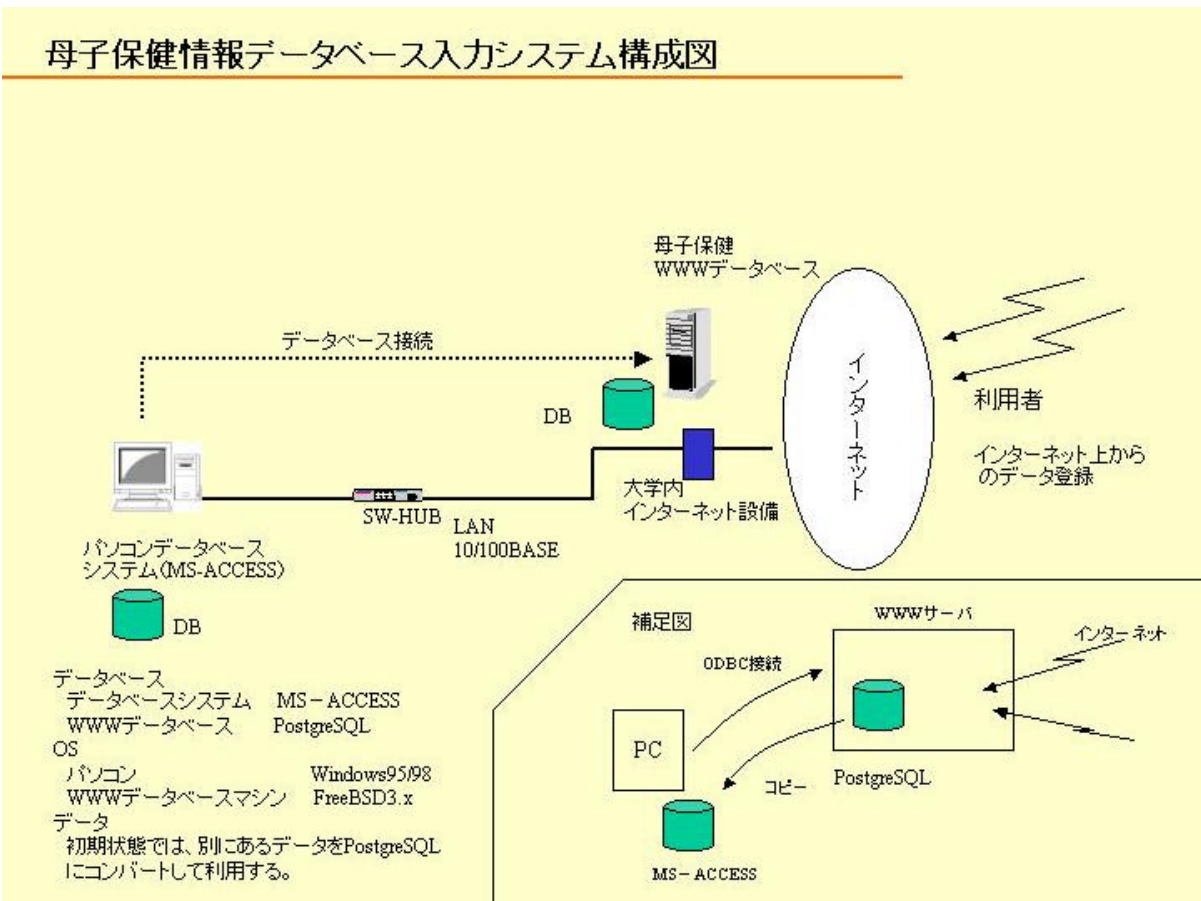
平成 11 年度に収集した母子保健情報について、情報提供者(調査主体)に情報について必要データを照会し、データベースを完成させる。さらに、これらの情報(統計、調査、研究)について、質的評価を行い、母子保健情報のミニコクランデータベースの作成を試みる。すなわち、統計については対象、実施母体、調査については対象、回収率、解析、研究については掲載雑誌による評価などにより、得点化する。この得点化にあたって、各専門分野の多くの研究協力者が必要である。また、これらのデータベースのシステム構築とホームページ上での専門家間の評価システム

の構築にこれらを専門とする業者への委託を必要とする。

分担研究者

山縣然太郎(研究方法および総括担当)、松浦賢長(小児保健、障害福祉、情報処理担当)、玉腰浩司、豊嶋英明(母性周産期担当)、長瀬博文、萩野景規(小児臨床担当)、中村和彦(学校保健担当)、大木秀一(基本統計担当)、山田七重(情報整理担当)

参考



表紙

平成11年度厚生科学研究費補助金 柳澤班:山縣班

各種母子保健・医療情報の集積、活用に関する研究

産科

小児保健

その他の分野

小児臨床

学校保健

一覧

分野別の合計

テキスト出力ボタン・ドライブ名を選択してから下のボタンを押して下さい

産科

小児臨床

小児保健

学校保健

その他

終了

小児保健

情報名 保健センターにおける家族を基盤にした母子保健活動のあり方に関する研究報告書 ジャンル 小児保健 その他

入力済情報名 情報年号 年

雑誌名 巻号 年(西暦) 頁開始 ~ 頁終了

実施母体 厚生省 文部省 政府省庁 マスメディア その他
 厚生省研究(班) 文部省研究班(科研含) 学会

母体責任者名

実施頻度 1/1年 1/3年 1/5年 不明 単発 対象人数 人 不明
 1/2年 1/4年 その他 対象人数その他の基準

情報開示年号 年 回収率 % 不明

実施レベル 全国 複数都道府県 単数都道府県 不明 その他

対象区分 乳児 小学生 高校生 父 母 家族 専門家
 幼児 中学生 大学生(準) 一般 患者 その他

個人情報 氏名 生年月日 年齢 性別 住所 ID なし 不明 個人抽出方法 無作為 全数 不明

カテゴリ 親 医療 保健 学校 福祉 社会 その他

情報管理問い合わせ先

情報管理郵便番号 URL http://
 情報管理電話番号 不明

入力者 検索No 418

レコード: 1 / 308